地域看護学

1　構　成　員

	平成23年3月31日現在
教授	2人
准教授	0人
講師(うち病院籍)	1人　　(0人)
助教(うち病院籍)	2人　　(0人)
助手(うち病院籍)	0人　　(0人)
特任教員(特任教授、特任准教授、特任助教を含む)	0人
医員	0人
研修医	0人
特任研究員	0人
大学院学生(うち他講座から)	11人　　(0人)
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技術職員(教務職員を含む)	0人
その他(技術補佐員等)	0人
合計	16人

2　教員の異動状況

巽　あさみ（教授）（H16. 4. 21 ～現職）

鈴木みずえ（教授）（H20. 8. 1 ～現職）

大塚　敏子（講師）（H20. 4. 1 ～現職）

菊地　慶子（助教）（H19. 4. 1 ～現職）

水田　明子（助教）（H20. 4. 1 ～現職）

3　研究業績

数字は小数２位まで。

	平成22年度
(1)原著論文数(うち邦文のもの)	2編　　(1編)
そのインパクトファクターの合計	0.00
(2)論文形式のプロシーディングズ数	1編
(3)総説数(うち邦文のもの)	3編　　(3編)
そのインパクトファクターの合計	0.00
(4)著書数(うち邦文のもの)	6編　　(6編)
(5)症例報告数(うち邦文のもの)	4編　　(4編)

そのインパクトファクターの合計	0.00

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Suzuki M, Tatsumi A, Otsuka T, Kikuchi K, Mizuta A, Makino K, Kimoto A, Fujiwara K, Abe T, Nakagomi T, Hayashi T, Saruhara T :Physical and Psychological Effects of 6-Week Tactile Massage on Elderly Patients With Severe Dementia. American Journal of Alzheimer's Disease & Other Dementias, 25(8), 680 -686, 2010.
2. 大塚敏子，荒木田美香子 , 三上洋：高校生の将来喫煙のリスクからみた特徴の分析　喫煙防止教育の検討に向けて，日本公衆衛生雑誌，57(5),366-380,2010.

インパクトファクターの小計　［ 0.00 ］

(2) 論文形式のプロシーディングズ

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Asami Tatsumi, Kenichi Sumiyoshi, Yukiko Sano :Effects of active listening training in the mental health seminar for managers “Evaluation of SOC”,ICOHN&ACOHN Joint Conference 218-219,2010.

(3) 総　説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 巽あさみ：派遣労働者の健康管理の実態と課題，産業ストレス研究，17(3),173-181,2010
2. 巽あさみ：メンタルヘルス不調で休業中の労働者の支援における産業看護職の役割，産業ストレス研究，17(4),257-262,2010
3. 鈴木みずえ：認知症ケアマッピングの発展的評価と看護実践における効果，コミュニティケア，3(1),50-57,2011.

インパクトファクターの小計　［ 0.00 ］

(4) 著　書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 鈴木みずえ，中川経子，金森雅夫（監訳），鈴木みずえ，巽あさみ，大塚敏子，菊地慶子，水田明子（翻訳）：高齢者の転倒予防―WHO グローバルレポート，クオリティケア，1-55,2010.
2. 鈴木みずえ，村田康子，内田達二，桑野康一，佐久間尚美，関口清貴：認知症介護訪問事業調査，NPO シルバー総合研究所，平成 22 年度老人保健事業推進費等補助事業老人保健健康増進等事業，認知症ケアマッピング (DCM) を活用した在宅ケアの有効性に関する報告書，71-125,2011.
3. 鈴木みずえ：認知症介護訪問事業調査，認知症ケアマッピング (DCM) を在宅で活用することの意義とマッパーの使命，NPO シルバー総合研究所，平成 22 年度老人保健事業推進費等補助事業老人保健健康増進等事業，認知症ケアマッピング (DCM) を活用した在宅ケアの

有効性に関する報告書，34-135,2011.

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの

1. 柳川洋，尾島俊之，北村邦夫，中村好一，巽あさみ，菊地慶子，倉田貞美，近藤今子，柴田陽介，千原泉，西山慶子，長谷川拓也，原岡智子，船橋香織里，安田孝子，渡辺晃紀：保健指導ノート保健師の活動状況, 2011 公衆衛生の現状, 社団法人日本家族計画協会, 東京, p1-16, p13-1 － p13-7, 2010.
2. 村田康子，鈴木みずえ，内田達二（編集），鈴木みずえ：認知症ケアマッピングの発展的評価が認知症の人に及ぼす影響，認知症ケアマッピングを用いたパーソン・センタード・ケア実践報告集 第 2 集 , クオリティケア，30-39,2010.
3. ドーン･ブルッカー（著），水野裕（監修），村田康子，鈴木みずえ，中村裕子，内田達二（翻訳）：VIPS ですすめるパーソン・センタード・ケア , クリエイツかもがわ ,2010.

(5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 巽あさみ，大塚敏子，小林章雄：うつ病・自殺予防対策のための睡眠保健指導システムの開発の関する研究平成 22 年度静岡県受託研究報告書 ,2010
2. 巽あさみ，須藤里美，尾島俊之，水田明子：事業場のメンタルヘルスに関する調査研究平成 22 年度浜松市受託研究報告書 ,2010
3. 巽あさみ，佐野京子，白川実千代：健康ふじ計画Ⅱ　富士市健康増進計画書，富士市 ,2010
4. 鈴木みずえ，牧野久美子，菊地慶子:タクティールケアに関するアンケート調査報告書 ,2010.

インパクトファクターの小計　［ 0.00 ］

4　特許等の出願状況

	平成22年度
特許取得数(出願中含む)	0件

5　医学研究費取得状況

	平成22年度
(1)文部科学省科学研究費	5件　(1090万円)
(2)厚生科学研究費	0件　(　0万円)
(3)他政府機関による研究助成	0件　(　0万円)
(4)財団助成金	1件　(　50万円)
(5)受託研究または共同研究	2件　(973万円)
(6)奨学寄附金その他(民間より)	0件　(　0万円)

(1) 文部科学省科学研究費

- 巽あさみ（研究代表者）基盤研究（C）うつ病・自殺予防のための健康診断における不眠に対する保健指導システムの開発　182 万円（新規）

- 巽あさみ（研究分担者）基盤研究（B）生活習慣病予防に対する保健指導の横断的な質の評価－評価指標と方法の開発　20 万円（継続）
- 鈴木みずえ（研究代表者）基盤研究 (B)　臨床判断プロセスを基盤とした認知症高齢者のための転倒予防包括看護質評価指標の開発　793 万円（新規）
- 鈴木みずえ（研究分担者）基盤研究 (A)　高齢者訪問看護質指標を用いたインターネット訪問看護支援システムの有効性検討　研究代表者　山本則子　30 万円（継続）
- 大塚敏子（研究代表者）若手研究 (B)　高校生の肥満と社会的スキルの関連の検討　65 万（新規）

(4) 財団助成金

- 鈴木みずえ（代表者）財団法人フランスベッド　メディカルホームケア研究助成 「認知症高齢者を介護する家族の介護負担緩和を目的としたソフトマッサージ（タクティールケア）の有効性」50 万円（新規）

(5) 受託研究または共同研究

- 巽あさみ（研究代表者）受託研究（浜松市）　事業所のメンタルヘルスに関する調査研究　平成 22 年 10 月 21 日～平成 23 年 3 月 31 日　170 万 8 千円
- 巽あさみ（研究代表者）受託研究（静岡県）　うつ病・自殺予防のための健康診断における睡眠に関する保健指導　平成 22 年 4 月 14 日～平成 23 年 3 月 18 日　801 万 7 千円

7　学会活動

	国際学会	国内学会
(1)特別講演･招待講演回数	0件	0件
(2)シンポジウム発表数	0件	1件
(3)学会座長回数	0件	5件
(4)学会開催回数	0件	1件
(5)学会役員等回数	0件	14件
(6)一般演題発表数	3件	

(1) 国際学会等開催・参加

5）一般発表

ポスター発表

- Asami Tatsumi：Effects of active listening training in the mental health seminar for managers “Evaluation of SOC”、ICOHN&ACOHN Joint Conference　Aug. 2010,Yokohama, JAPAN
- Mizue Suzuki, Asami Tatsumi, Toshiko Otsuka, Keiko Kikuchi, Akiko Mizuta, Kumiko Makino, Akie Kimoto, Kiyoe Fujiwara, Toshihiko Abe, Toshihiro Nakagomi, Tatsuya Hayashi, Takayuki Saruhara. The effects of six weeks tactile touch for the elderly patients with dementia and nurses practicing tactile touch: a randomised controlled trial. Journal of the Alzheimer’s Association & Dementia Alzheimer’s, 6(4), S1,P.S335　July. 2010, Hawaii, USA

- Masao Kanamori1, Mizue Suzuki, Mami Yasuda, Yuriko Oku, Kayo Tokita, Ayako Soyano, Hiramatsu Tomoko, Izumi Kiyoko, Akira Honma, Yoshiteru Mutoh. The Usefulness of Fall Assessment Tools to Improve the Quality of Fall Prevention Care Management in Japanese Geriatric Care Facilities. Journal of the Alzheimer’s Association & Dementia Alzheimer’s, 6(4), S1,P.S335 July. 2010, Hawaii, USA

(2) 国内学会の開催・参加

1）主催した学会名

- 巽あさみ：平成 22 年度日本産業衛生学会東海地方会学会　企画実施代表者，平成 22 年 11 月

3）シンポジウム発表

- 巽あさみ：労働者相談対応のためのポピュレーションアプローチ　第 18 回日本産業ストレス学会，平成 23 年 1 月 22 日，神戸

4）座長をした学会名

巽あさみ　　平成 22 年度日本産業衛生学会東海地方会学会 ,2010 年 11 月，静岡
巽あさみ　　第 52 回日本産業衛生学会　産業精神衛生研究会 ,2011 年 2 月 , 名古屋
鈴木みずえ　第 8 回転倒予防医学研究会研究集会，2010 年 10 月，東京
鈴木みずえ　第 11 回日本認知症ケア学会大会，2010 年 10 月，神戸
鈴木みずえ　第 30 回日本看護科学学会学術集会，2010 年 11 月，北海道

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

巽あさみ　　日本産業衛生学会　代議員、査読委員
巽あさみ　　日本産業ストレス学会　理事、編集委員
巽あさみ　　日本看護医療学会　理事、査読委員
巽あさみ　　日本産業衛生学会東海地方会　理事
巽あさみ　　東海公衆衛生学会　評議員
巽あさみ　　日本産業衛生学会　産業精神衛生研究会　世話役
巽あさみ　　日本産業衛生学会　職場ストレス研究会ワーキングメンバー
巽あさみ　　日本産業衛生学会　就労女性研究会世話役
鈴木みずえ　日本看護科学学会　評議委員
鈴木みずえ　日本看護研究学会　査読委員
鈴木みずえ　日本老年看護学会　評議委員・日本老年看護学会誌編集委員
鈴木みずえ　日本認知症ケア学会　評議委員・査読委員
鈴木みずえ　第 13 回日本認知症ケア学会大会 大会実行委員
鈴木みずえ　転倒予防医学研究会　世話人・学術委員

8　学術雑誌の編集への貢献

	国　内	外　国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0件	0件

(3) 国内外の英文雑誌のレフリー

巽あさみ：1 回　Journal of Occupational Health JOH　(日本)

鈴木みずえ：1 回　Geriatrics and Gerontology International（日本）

鈴木みずえ：1 回　Japan Journal of Nursing Science（日本）

9　共同研究の実施状況

	平成22年度
(1)国際共同研究	1件
(2)国内共同研究	8件
(3)学内共同研究	1件

(1) 国際共同研究

- Mizue Suzuki：Ate Dijkstra (NHL University of Applied Sciences, オランダ), Gülendam Hakverdioğlu Yönt (Ege University, トルコ), Esra Akin Korhan (Ege University, トルコ), Marta Muszalik (Nicolaus Copernicus University, ポーランド), The Care Dependency Scale for measuring basic human needs: its utility in international comparison. (Journal Advanced Nursing に投稿中)

(2) 国内共同研究

- 森田理恵（大阪大学医学系研究科保健学専攻），荒木田美香子，佐藤潤，山下瑠璃子，青柳美樹（国際医療福祉大学小田原保健医療学部），伊藤範子，中元健吾（日本ガイシ株式会社），鈴木志津江（浜名湖電装株式会社），浜辺郁子（オリンパス株式会社），巽あさみ：メタボリックシンドロームを対象とした継続的な保健指導における効果の検討　生活習慣病予防に対する保健指導の横断的な質の評価－評価指標と方法の開発　基盤研究（B）
- 巽あさみ，小林章雄（愛知医科大学衛生学），大塚敏子，鳥羽山睦子（社福　聖隷福祉事業団聖隷保健事業部）：うつ病・自殺予防のための健康診断における不眠に関する保健指導システムの開発　基盤研究（C）
- 巽あさみ，小林章雄（愛知医科大学衛生学），大塚敏子，竹下千世：うつ病・自殺予防のための健康診断における睡眠に関する保健指導　受託研究（静岡県）
- 鈴木みずえ，牧野公美子，菊地慶子，木本明恵 (日本スウェーデン福祉研究所)，林辰弥 (三重県立看護大学)：家族介護者に対するソフトマッサージの有効性
- 牧野公美子，鈴木みずえ，菊地慶子，木本明恵 (日本スウェーデン福祉研究所)，中込敏寛 (日本スウェーデン福祉研究所)：タクティールケア認定取得者アンケート調査における“触れるケア”の効果と意義の検討
- 遠藤英俊 (長寿医療研究センター)，鈴木みずえ，下山久之，本田恵子，永田寿子 (こうほうえん)，吉野立，堀部賢太郎 (厚生労働省)，桑野康一 (NPO シルバー総合研究所)：平成 22 年度老人保健事業推進費等補助金 DCM(認知症ケアマッピング) を活用した在宅ケアの

有効性に関する調査研究事業

- 鈴木みずえ，泉キヨ子，谷口好美，平松知子 (金沢大学)，水谷信子 (兵庫県立大学)，丸岡直子 (石川県立大学)，岡本恵理 (三重県立看護大学)，加藤真由美 (新潟大学)，菊地慶子：臨床判断プロセスを基盤とした認知症高齢者のための転倒予防包括看護質評価指標の開発
- 鈴木みずえ，山本則子 (東京医科歯科大学)：高齢者訪問看護質指標を用いたインターネット訪問看護支援システムの有効性検討

(3) 学内共同研究

- 巽あさみ，須藤里美，尾島俊之，水田明子：事業場のメンタルヘルスに関する調査研究 浜松市受託研究

10　産学共同研究

	平成22年度
産学共同研究	0件

12　研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. うつ病・自殺予防のための睡眠保健指導に着目した研究

一昨年から取り組んでいる研究課題である。日本の現役世代の自殺を予防するための睡眠を切り口としたメンタルヘルス対策である。自殺者は平成 10 年より 12 年連続で 3 万人を越えており、自殺者の減少は喫緊の課題である。自殺の原因としてうつ病が指摘され、特に現役世代のうつ病の発生率が近年は以前の 3 倍に増加していると言われている。そして睡眠障害はうつ病に多く見られる症状であり、適切な睡眠をとることで人々の QOL が向上することは今までに多くの報告がある。しかし、実際に保健指導の効果を検討した研究は少ない。今年度は昨年度作成した保健指導マニュアルを改訂した。実際に約 4000 人を対象に、健康診断時に睡眠アセスメントを実施し、必要に応じて保健指導をした。既に国内学会でも発表した「日中の眠気に関する研究」や「K6 と二週間以上の不眠との関連」では、対象者の 16％に日中の強い眠気があること、若い者にうつ傾向が強いこと、K6 でうつのリスクが高い者は食欲や体重減少など男性だけにみられ、性差があることがわかった。

今年の国際学会　American Public Health Association で発表するが、K6 得点が 10 点以上の者は男性労働者の 1 割以上いること、ストレスや倦怠感、不眠との有意な関連があることがわかった。睡眠保健指導システムを構築する上で調査項目の選択に活かしていきたい。

(巽あさみ，大塚敏子)

2. 生活習慣病予防に対する保健指導の質の評価に関する研究

平成 20 年度から開始された特定保健指導はその質の評価指標の開発が待たれているところである。保健指導の対象者の健康管理能力を包括的に把握するための指標である Health Education Impact Questionaire の日本語版を用いて評価することおよび保健指導の実際の

プロセスの検討をバリアンス分析手法を用いて実施することを進めた。バリアンスについて質的に検討するためにインタビューを実施した。今後はデータテキストマイニングの手法を使用してバリアンスの解析を勧めていく予定である。
（巽あさみ，大塚敏子，竹下千世，荒木田美香子）

3. The Care Dependency Scale for measuring basic human needs: its utility in international comparison
ケア依存度尺度 (Care Dependency Scale) を用いて、オランダ、トルコ、ポーランド、日本の 4 か国における比較をした国際共同研究。現在、Advanced Nursing に投稿中である。
（鈴木みずえ，[1]Ate Dijkstra, [2]Gülendam Hakverdioğlu Yönt, [2]Esra Akin Korhan, [3]Marta Muszalik,）
[1]NHL University of Applied Sciences, [2]Ege University, [3]Nicolaus Copernicus University

4. 癒しを目的とした“人に触れるケア”の実践者に対する意識調査
タクティールケアはスウェーデンで開発されたタッチとマッサージの中間的な位置づけにあるケア方法で、対象者の手や足・背中を柔らかく包み込むように触れる。タクティールケアⅠコース認定取得者 476 名を対象に無記名自記式質問紙調査を実施し、調査研究に同意した 207 名 (回答率 43.5%) から回答を得た。調査項目は実施年数や頻度、実施対象者、タクティールケアに関する意識などであり、因子分析などを行い、相互の関連などを明らかにした。今後、研究成果を発表していく予定である。
（鈴木みずえ，菊地慶子，牧野公美子，木本明恵，中込敏寛）

5. 家族介護者に対するソフトマッサージの有効性
本研究の目的は、認知症高齢者の在宅家族介護者を対象にタクティールケアを実施し、家族介護者の介護負担に関連する症状の軽減に対する効果を明らかにすることである。平成 22 年 6 月～ 7 月に通所デイサービスを利用する認知症高齢者を介護する家族介護者を対象とした。家族に対するタクティールケアは体の痛みの緩和やストレス軽減の効果が示唆された。
（鈴木みずえ，牧野公美子，菊地慶子，木本明恵，林辰弥）

6. 平成 22 年度老人保健事業推進費等補助金 DCM(認知症ケアマッピング) を活用した在宅ケアの有効性に関する調査研究事業
在宅認知症高齢者のケアの質や望ましいケアの方向性については十分明らかではない。本研究は認知症ケアマッピング (DCM) を用いて、第三者的視点で認知症ケアをデータ化して分析した。在宅では施設と異なった状況がみられ、家族が積極的に介護を実施しており、ご本人と家族の QOL 指標が相関しており、認知症高齢者の介護を支援するためには家族の生活も含めて支援する必要があることが明らかになった。
（遠藤英俊，鈴木みずえ，下山久之，本田恵子，永田寿子，吉野立，堀部賢太郎，桑野康一）

7. 臨床判断プロセスを基盤とした認知症高齢者のための転倒予防包括看護質評価指標の開発

認知症看護の転倒予防に必要な臨床診断能力のプロセスの分析をするために、認知症看護のエキスパートである認知症認定看護師、老年看護専門看護師などを対象にフォーカスグループインタビューを実施した。インタビューの結果から認知症高齢者の臨床診断能力の要因および構造などを分析、エキスパートは転倒リスクを予測し、効果的と考えられる根拠に基づいてケア計画の判断を行っていることが明らかになった。さらに、転倒予防包括看護質評価指標のフレームワークとしてはパーソン・センタード・ケアの理念に基づくことが決定され、各指標の内容を検討した。

（鈴木みずえ，泉キヨ子，谷口好美，平松知子，水谷信子，丸岡直子，岡本恵理，加藤真由美，菊地慶子）

8. 高齢者訪問看護質指標を用いたインターネット訪問看護支援システムの有効性検討

高齢者訪問看護質評価指標「転倒予防」に基づくインターネットを用いた訪問看護師への支援プログラムが、訪問看護サービスの向上や利用者の評価につながるかを分析し、プログラムの有効性を検討している。浜松市内と豊橋市の訪問看護ステーションに参加を依頼し、1 年間の介入を継続している。

（鈴木みずえ，山本則子）

9. 高校生の肥満と社会的スキルの関連の検討

本研究の目的は、ライフスキルの中でも肥満との関連がほとんど検討されていないコミュニケーションスキル等の「社会的スキル」およびその他要因と、高校生の肥満との関連性を明らかにすること、また、明らかとなった関連要因から集団のリスク状態に応じた集団教育プログラムの検討を行うことである。研究開始初年度の本年度は東海地方の 3 つの高等学校の生徒約 500 名への質問紙調査を実施した。今後、収集したデータの分析によりコミュニケーションスキル等の「社会的スキル」およびその他要因と、高校生の肥満との関連性を明らかにする。また、学校ごとの特徴から高校生の肥満に関する介入について各校の養護教諭等と検討を行う予定である。

（大塚敏子）

13　この期間中の特筆すべき業績，新技術の開発

1. うつ病および自殺予防のための健康診断時スクリーニングおよび保健指導システムの開発

健康診断時に問診票の代わりに WEB を利用した回答を実施し、その結果を保健スタッフに通知するシステムである。浜松医科大学のサーバーを利用して行うシステムを開発した。

特に、働く世代を中心に実際に運用してデータを収集して活用できるよう範囲を広げていく予定である。

（巽あさみ，小林章雄）

15　新聞，雑誌等による報道

1. 鈴木みずえ：優しく触れて安らかに：タッチで癒すタクティールケア，朝日新聞　平成 23

年 1 月 29 日朝刊

2. 鈴木みずえ：認知症：患者の攻撃性 手に触れ減少　臨床研究初の実証，静岡新聞　平成 23 年 3 月 9 日朝刊
3. 鈴木みずえ：介護の現場でも注目されるタクティールケア　認知症患者との言葉を超えたコミュニケーション手段，ストレスから楽になる本，Health Premie 日経 BP ムック，2011